

海運の重要性を学校教育の場で  
～越谷市の学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力等に取り組んでおります。

12 月 2 日（月）に、埼玉県越谷市立蒲生小学校の 5 年生約 140 名を対象に、オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社と協力のうえ、海運に関する出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。今回の出前授業は、2024 年 8 月 4 日（日）に横浜市で開催した教員向け商船見学会（[8 月 19 日付レポート参照](#)）に参加した教員からの依頼により実施いたしました。

第 1 部では、日本船主協会による海運と貿易に関する授業を実施しました。授業冒頭では、クイズを交えながら、海運が日本の貿易量の 99% 以上を担っている事とその役割の重要性について説明し、日本の生活には海運が欠かせないことを伝えました。その後、自動車産業を例に挙げ、自動車部品の原材料の多くは海外から船で輸入しており、運ぶものに応じて様々な船の種類があることを紹介しました。



日本の貿易における海上輸送の割合クイズで盛り上がる様子



（左上）自動車船が欧州と米国東海岸へ向かう際の航路を考える児童たち。

（右下）児童に書き込んでもらった航路。



次に、日本から輸出される自動車の大半を自動車船で運んでいることについて、効率よく大量に運ぶための工夫や、航空機と比較して安く運ぶことができるという船のメリットを挙げて説明しました。その後白地図を配布し、米国東海岸やヨーロッパへ自動車を運ぶ際の航路を考えて描きこんでもらう課題を実施すると、児童たちは「どこなら船で通れそうか」「最短距離はどこか」と互いに相談しながら熱心に航路を考えていました。

正解発表の際には、東海岸への航路で通航するパナマ運河の仕組みについて動画も交えて解説し、開門を通過して船が通航する様子に児童たちからは驚きの声があがりました。参考として、パナマ運河と同じ仕組みの見沼通船堀（さいたま市）についても紹介しました。

第1部の最後には、船を動かす「船員」の仕事と、その重要性について話しました。四方を海に囲まれた島国で暮らす我々の豊かな暮らしを支えているのは、24時間365日、船を動かしてくれている船員であるという話に、児童たちは真剣な表情で耳を傾けてくれました。

普段は目にすることが少ない、海運とそれを支える船員たちの役割と重要性について知る機会になったのではないかと思います。



日本の海運を支える船員の重要性について伝える様子

第2部では、オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社の担当者による、コンテナに関する授業が行われました。「すごいな、コンテナ！」と題した授業で、①コンテナの規格統一によって荷役作業時間が大幅に短縮したこと、②荷物に合わせて様々な種類のコンテナを活用していること、③巨大なコンテナ船はたくさんのものを一度に輸送できることが、たくさんの写真を交えて紹介され、児童たちは楽しそうに聞いていました。

コンテナ船の大きさを実感してもらう「コンテナ船の大きさクイズ」では、世界最大級のコンテナ船は蒲生小学校と比べてどれくらい大きいかを児童に考えてもらい、正解として校庭よりさらに大きいということが発表されると、児童たちは「そんなに大きいの！」と大変盛り上がっていました。

授業の最後に、コンテナについて楽しく学ぶことのできるサイト「[CONTAINER WORLD](#)」が紹介されると、早速タブレットで同サイトを閲覧する児童の姿が見られ、海運やコンテナ輸送に関心を持ってくれた様子でした。



(左) コンテナ船の大きさクイズで盛り上がる様子



(右) 正解発表。コンテナ船は全長約400mでなんと学校より大きい！

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上